

### キーワード3 傾聴

F教諭：「どうして、何度も注意されてもこういう違反をするの？」

Gさん：「でも…私だけではありません。」

F教諭：「どうして違反をするのか、Gさんの気持ちを話してくれないかな？」

Gさん：「先生が…」

F教諭：「うん、先生が。」

Gさん：「先生が、他の生徒がふざけていても何も言わないのに、私たちがちょっと騒いだぐらいですごく怒るの。」

F教諭：「それで…」

Gさん：「それでね、頭にきて。」

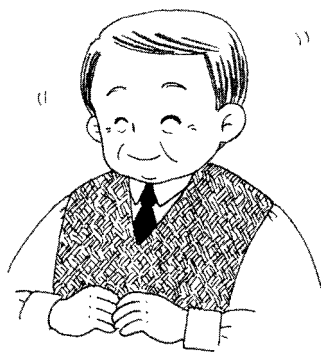
F教諭：「じゃあ、なんか他の生徒と差別されている感じなの。」

Gさん：「ええ、だから先生に反抗してやろうとして。」

F教諭：「そう、先生に反抗するために校則に違反していたんだ。」

Gさん：「他の生徒は同じようにやっているのに叱られなかったの  
で、ムカッときちゃって。」

F教諭：「そうか、ムカッときちゃったのか。」



事例でF教諭は、Gさんの思いをしっかりと傾聴しています。傾聴とは「聴く」ことです。「聴く」とは身振り、表情、視線、口調などにも注意して、何を訴えたいのか、話し手の言葉の感情的な意味を受けとめることです。

### 「聴く」ための5つのポイント

#### ① 話しやすい雰囲気をつくる

話す場所や座席の位置を工夫したり、話の入り方に配慮します。

#### ② 先入観をもたずに聴く

自分の先入観で解釈すると、子供の思いとズレが生じます。目の前にいる子供の話を、心を込めて聴くことです。

#### ③ 質問をできるだけ控える

質問が多いと、尋問されているような思いを与えます。

#### ④ 相手の発言をじっくり待つ

話が途切れたときは、「考えている」「迷っている」など色々な意味があります。あせらずに待つことも大切です。

#### ⑤ 勝手な解釈や評価、批評はやめる

一方的な説明、説得をするのではなく、子供の一つ一つの発言を大切に受けとめることです。

### 「聴き方」の具体的な行動

- ① あいづちを打つ（相手の訴えを分かろうとする）
- ② 相手の言葉や思いを繰り返す
- ③ 相手の訴えを整理して、はっきりさせる
- ④ 「でも」など、相手の言葉をさえぎる言葉を使わない